



CONTENTS

- 巻頭言 …P.1
- 現地活動報告
 - フィリピン・ベトナム …P.2
- 支援で育つ子どもたち …P.4
- スポンサーの広場 …P.4
- ◇TOPIC◇
 - フィリピン訪問ツアー報告 …P.5
- 日本事務局から報告・お知らせ …P.7

愛することで成長する

新約聖書に出てくる使徒パウロという人物がこのように語っています。

「私たちは、いつもあなたがたすべてのために神に感謝し、祈りのときにあなたがたを覚え、絶えず、私たちの父なる神の御前に、あなたがたの信仰の働き、愛の労苦、主イエス・キリストへの望みの忍耐を思い起こしています」

「愛の労苦」ということば、これはギリシャ語では、「コポス」ということばです。愛から湧き出る労苦(コポス)というものがあって、そのことへの感謝を述べているわけです。

実はこのことば、興味深いことに、聖書の別の箇所では、「面倒」と訳されています。同じ新約聖書のルカの福音書の中に、イエスの語られたたとえ話に出てくることばです。こんなお話です。ある人の家に、真夜中に友達が訪ねてきました。ところが、もてなすパンがなかったので、隣の家の人にパンを分けてもらいに行きます。そうすると、その家の人「もう戸締りもしてしまったし、家族も皆布団に入っている、面倒をかけないでくれ」と語った、「面倒」ということば

が「コポス」なのです。

つまり愛から湧き出る労苦というのは、「しないで済むならばできるだけやりたくないこと、自分にとって面倒なこと」なのではないでしょうか。確かに、犠牲もなしに、面倒でもなくなされることは、愛から出た働きではないのかもしれませんが。

何でも喜んで、進んでやれるというのは、素晴らしいことですし、期待されることです。しかし、しばしば、愛の労苦というのは、地味なもので、「面倒」と思う気持ちに打ち勝っていく、人間的に成長する中でなされるところがあるのでしょうか。人助けというのは、実は上下ではない、むしろ、助ける人も成熟の恵みを感じさせられる働きなのだと思います。

(HFI 代表 福井 誠)

